

審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 2807 号	氏名	江崎 英司
審 査 担 当 者	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> 主 査 石 竹 達 也 副主査 山 田 研 太 郎 副主査 沢 田 入 雄 </div> <div style="width: 50%; text-align: right;"> (印) (印) (印) </div> </div>		
主論文題目： Serum vaspin levels are positively associated with carotid atherosclerosis in a general population 一般住民において、血清バスピンレベルは、頸動脈硬化と正に関連する			

審査結果の要旨（意見）

本研究では、一般住民を対象とした疫学研究により、血清バスピン濃度と動脈硬化との関連性の検討を行い、血清バスピン濃度と動脈硬化の指標とした c-IMT が独立して関連していることを明らかにした。さらに、バスピンはインスリン抵抗性とは独立して有意に動脈硬化と関連することを初めて報告した貴重な論文である。しかしながら、バスピンは生体内での機能が十分に解明されていない生理活性物質であるが、今回の疫学研究（横断研究）で、一般住民における動脈硬化への関与の可能性が示唆され、動脈硬化の予防のマーカーとしての意義を明らかにするために是非、前向き研究の実施を期待する。本論文は今後の循環器疾患予防の視点から、動脈硬化の早期発見にとって有用な知見を提供している。よって学位論文として価値のあるものと判断する。

論文要旨

バスピンは、アディポカインと呼ばれる脂肪細胞が、特異的に分泌する脂肪動員物質の一種である。インスリン抵抗性は、動脈硬化の進展、促進に重要な役目を果たしている。しかしながら、血清バスピンレベルと動脈硬化の関連は不明である。そこで、我々はバスピンが、頸動脈の内膜・中膜厚(c-IMT)と関連を持つか否かを検討した。

本邦での一般住民検診を受診した 40 歳以上の 201 人（男性 78 人、女性 123 人）を対象に採血および頸動脈エコーを施行し、血清バスピンやインスリン抵抗性の指標である HOMA 指数および c-IMT を測定した。単変量解析では、バスピンは、BMI、インスリン、HOMA 指数、eGFR（負）、c-IMT および高血圧治療と関連した。ステップワイズ法による重回帰分析では、HOMA 指数、c-IMT、eGFR（負）は有意にバスピンと関連していた。一方、c-IMT は、年齢、高血圧治療およびバスピンと関連しており、バスピンは、インスリン抵抗性と独立して c-IMT と有意に関連していた。

本研究は、バスピンがインスリン抵抗性と関連するだけでなく、インスリン抵抗性と独立して有意に頸動脈硬化と関連することを示した初めての報告である。